

経済産業省「フランチャイズにおける物流に関するアンケート調査」結果

平成 29 年 6 月 29 日

(一社) 日本フランチャイズチェーン協会

1. 調査概要

(1) 調査対象 環境委員会委員所属会社：20 社（外食チェーン、コンビニエンスストア）

(2) 回答会社 ①小売・外食：9 社

②コンビニエンスストア（CVS）：8 社 （平成 29 年 6 月 12 日現在）

2. 調査結果

(1) 製造事業者から加盟店までの商品の流れについて（複数回答あり）

項 目	小売・外食	CVS
(I) 製造事業者 ⇒ 卸売事業者 ⇒ 共同配送センター ⇒ 加盟店	5 社	5 社
(II) 製造事業者 ⇒ 卸売事業者 ⇒ 加盟店	5 社	6 社
(III) 製造事業者 ⇒ 共同配送センター ⇒ 加盟店	8 社	6 社
(IV) 製造事業者 ⇒ 加盟店	4 社	6 社
(V) その他（製造事業者 ⇒ 自社 ⇒ 加盟店）		1 社
合 計	9 社	8 社

(2) フランチャイズ本部が貨物輸送事業者と貨物輸送に係る契約を結んでいるかについて

（複数回答あり）

項 目	小売・外食	CVS
(A) 結んでいる。	7 社	4 社
(B) 結んでいない。	2 社	5 社
合 計	9 社	8 社

※（B）とご回答された場合は、(3) を回答。

(2-1) 貨物輸送事業者との輸送に係る契約はどの区間の輸送に関するものかについて

項 目	小売・外食	CVS
① (I) (II) 製造事業者 ⇒ 卸売事業者	1 社	
② (I) 卸売事業者 ⇒ 共同配送センター	1 社	
③ (I) (III) 共同配送センター ⇒ 加盟店	7 社	4 社
④ (II) 卸売事業者 ⇒ 加盟店	1 社	
⑤ (III) 製造事業者 ⇒ 共同配送センター	2 社	
⑥ (IV) 製造事業者 ⇒ 加盟店	2 社	
(V) その他 ()		
合 計	7 社	4 社

(2-2) (2-1) において選択した区間における輸送に係る契約の内容について (複数回答あり)

項 目	小売・外食	CVS
(A) 輸送条件 (温度管理)	7社	3社
(B) 輸送条件 (荷姿、パレット化等)	6社	3社
(C) 輸送ルート	5社	3社
(D) 輸送頻度	6社	3社
(E) 輸送時間 (発時刻又は着時刻)	6社	3社
(F) その他 (物流業務委託契約)	1社	
合 計	7社	3社

(3) 貨物輸送事業者と製造事業者、卸売事業者、共同配送センター又は加盟店との間の輸送に係る契約の内、フランチャイズ本部が輸送に係る契約の内容に影響力を有しているかについて (複数回答あり)

項 目	小売・外食	CVS
(A) 有している。	6社	5社
(B) 有していない。	2社	3社
合 計	8社	7社

※ (B) とご回答された場合は、(4) を回答。

(3-1) 輸送に係る契約の内容に有している影響力の内容について (複数回答あり)

項 目	小売・外食	CVS
(A) 輸送条件 (温度管理)	6社	4社
(B) 輸送条件 (荷姿、パレット化等)	4社	3社
(C) 輸送ルート	2社	2社
(D) 輸送頻度	4社	5社
(E) 輸送時間 (発時刻又は着時刻)	5社	4社
(F) その他 ()		
合 計	6社	5社

(3-2) フランチャイズ本部が輸送に係る契約の内容に影響力を有しているのはどの区間の輸送であるかについて (複数回答可)

項 目	小売・外食	CVS
① (I) (II) 製造事業者 ⇒ 卸売事業者	1社	
② (I) 卸売事業者 ⇒ 共同配送センター	3社	1社
③ (I) (III) 共同配送センター ⇒ 加盟店	5社	4社
④ (II) 卸売事業者 ⇒ 加盟店	2社	2社
⑤ (III) 製造事業者 ⇒ 共同配送センター	4社	1社
⑥ (IV) 製造事業者 ⇒ 加盟店	3社	2社
⑦ (V) 製造事業者 ⇒ 自社		
⑧ (V) 自社 ⇒ 加盟店		
合 計	6社	5社

(4) 製造事業者から加盟店までの物流の内、輸送量（トンキロ）を把握している又は把握可能な範囲について（複数選択可）

項 目	小売・外食	CVS
① (I) (II) 製造事業者 ⇒ 卸売事業者		
② (I) 卸売事業者 ⇒ 共同配送センター	2社	
③ (I) (III) 共同配送センター ⇒ 加盟店	5社	6社
④ (II) 卸売事業者 ⇒ 加盟店	2社	
⑤ (III) 製造事業者 ⇒ 共同配送センター	4社	1社
⑥ (IV) 製造事業者 ⇒ 加盟店	2社	1社
⑦ (V) 製造事業者 ⇒ 自社		
⑧ (V) 自社 ⇒ 加盟店	1社	1社
合 計	7社	6社

(5) 物流の効率化のために実施しているフランチャイズの本部としての取組みについて

①小売・外食

* 配送ルートの見直し（共同配送センター ⇒ 加盟店までの間）。

荷姿・梱包方法の見直しと単位重量の軽量化。

* 他社との共同配送（一部地域）。

配送回数と配送ルートの定期的な見直し（配送順と担当物流拠点）。

横持ち輸送の積載率の向上。

外部からの直送物を自社の配送便の梱包することで宅配便利用の20%削減。

* 出荷量による納品単位の管理。

配送センター拠点の再編、検討。

三温度帯一括配送。

共同配送。

* 売上予測、販売予測による発注数量自動化を行い、効率の高い物流計画を実施。

精度の高い売上予測がこれを可能にしている。

* 通い箱による物流量の削減。

折り畳みコンテナ利用による段ボール廃棄量の削減。

鉄道貨物の活用。

②CVS

* ドミナント化の推進及びルート再編による配送効率改善に努めている。

* 共同配送等の取組み。

* 店舗への納品頻度の適正化やトラックへの積載商品の組合せ見直しによる積載効率の向上。

* 共同配送センターから加盟店への納品回数の削減。

異なる温度帯（常温・冷凍・冷蔵）を同一車両にて納品。

* チェーン本部である当社が卸売問屋となることで物流効率が高まる。取引スキーム（V）に向けて、切り替える取組みを進めている。

以 上